

たかすっ子

学校だより 第5号
令和3年8月30日発行
千葉市立高洲第四小学校

『I'm POSSIBLE』の精神から学ぶ

校長 渡辺 基博

44日間の夏休みが終わり、子供たちの元気な姿が学校にもどってきました。今朝行った夏休み明け集会では、クラス代表の子供が「夏休みに頑張ったこと」や「これから頑張りたいこと」をいきいきと話していました。新型コロナウイルス感染の影響で、活動が制限され、思うようなことができなかった休みだったと思いますが、各ご家庭でいろいろ工夫していただいたことも同時に伝わってきました。



そのようなコロナ禍で行われた、東京オリンピック。開催に際しては私も複雑な気持ちでしたが、日本開催でさまざまな種目が中継されたことに加え、最多のメダル獲得という結果で、スポーツへの関心が高まったという報道もされていました。「自分の中の常識を覆すことができた」「戦術、技術ではない。気持ちで勝てた」「嫌いで苦手だった技の習得が金メダルにつながった」など選手から勇気と元気をもらえた17日間でもあったと思っています。

オリンピック・パラリンピックの選手の成功例の裏には、共通して「自分を知り、何をどのようにすれば、最高の結果にたどりつけるか」というプラン、自分を信じ、限界まで努力できる大会への強い思いがあります。

パラリンピック開会式の前、シドニーパラリンピックの銀メダリストで、今回の聖火ランナーを務めた高田晃一さんと電話で話している中で、「子供たちには、国際パラリンピック委員会公認教材名にもなっている『I'm POSSIBLE』(不可能<Impossible>だと思えたことも、ちょっと考え工夫することでできるようになる<Impossible>)というパラリンピック選手たちのメッセージ)の精神を感じ、これから生きていく中で壁にぶつかった時、すぐにあきらめるのではなく、見方や考え方を変え、今ある力(パラ選手で言えば、残された機能)を伸ばすことが大切なんだという気持ちになってくれると嬉しい。障害が見える分、オリンピックよりパラリンピックの方が伝わってくるはずだから。」ということをおっしゃっていました。パラリンピックも連日テレビ中継がされています。学校でも、オリパラ教育の一環として、競技を知るとともに、パラスポーツとの出会い、人間のもつ可能性、選手の努力など、障害と向き合いながら生きる姿から、『I'm POSSIBLE』を感じる機会にしたいと考えています。

一方で、新型コロナウイルスの新規感染者が増え、子供たちの間でもこれまで以上に感染する危険度が増しているという話をよく聞きます。千葉市では、9月10日(金)まで40分授業、最大5時間授業にして感染を防ぐ対策を行いますが、学校では、これまで行っている対策を再度徹底するとともに、休み時間での手洗いや消毒推進、密になる場面を極力回避してまいります。また、本日の集会で、「マスクをしても近距離で話すことを避けよう」「手をつなぐことでもリスクがある」など、「学校生活の中で、何に気を付けなくてはならないのか」ということも伝え、裏面のようなポスターを各教室に貼ることとしました。報道を見て、不安を感じている保護者の方、子供も多いと思います。これまで以上に学校・家庭が連携をとり、一人一人が感染防止を意識しながら過ごせるように取り組んでまいりますので、引き続きご理解・ご協力をいただけますようお願いいたします。